

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.857
2019.12.1

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき	とば めぐみ
とりうみ敏行	金子 あきよ
松村 としお	たけこし 連
久保 みき	

台風被害の経験を踏まえ 災害対策をすすめて



災害対策調査特別委員会 ひらかれる

11 月 18 日、台風 19 号災害対策調査特別委員会がひらかれ、党市議団から久保みき、たけこし連の両市議が出席しました。

はじめに台風被害が拡大した原因と市の対策、避難指示や避難所、そして復旧復興について市の説明を受けました。

市は台風 19 号の被害状況について「1 日で 288 ミリの雨量を計測し、複数の河川の水位が上昇したことによって被害が拡大した」と報告。台風発生当日、強風を想定して午前中から市内 198 カ所の避難所を開設したものの、想定を超える大雨となり市民が避

難所へ移動するのは危険と判断、「垂直避難（少しでも高いところに移動）」への誘導に切り替える判断に至ったとのことでした。市は、水害時におこなうべき広域避難（区を越えた避難）について、避難計画の運用・協議が不十分だったと認めました。

質疑では、久保市議から、災害時に障害者が安心して利用できる福祉避難所の開設やペットの同伴避難について、たけこし市議からはニーズに応じた支援が迅速にできるよう各業界団体と災害協定を結ぶことを、それぞれ求めました。台風時に市の HP がアクセス障害を起こした件についてはサーバーを強化し改善されることが明らかになり、浦和卸売市場や農業者への支援については 12 月議会に補正予算が組まれています。その他、党市議団として提案していた福祉避難所の整備、福祉施設への国庫補助金投入、避難所まで移動できるよう民間バス会社等と協定を結ぶことなどは検討すると前向きな回答がありました。

12 月
議会

市長のボーナス また値上げ？！

清水市長より、市長等特別職（常勤）のボーナス（期末手当）値上げ議案が提出されました。市長および副市長については、年間支給月数を 3.35 月分から 3.40 月分に引き上げ、議員については、年間支給月数を 3.30 月分から 3.40 月分に引き上げる議案です。可決されれば 10 年連続の値上げとなります。

昨年度も同様の値上げ議案が提出されましたが、議員にかかる部分については市議会と

市長の年間給与額の推移

年	月例給	期末手当	年間給与額
2010 年 (平成 22 年)	15,001,767 円	5,260,460 円	20,262,227 円
2014 年 (平成 26 年)	15,960,120 円	5,844,958 円	21,805,078 円
2018 年 (平成 30 年)	16,674,138 円	6,607,204 円	23,221,342 円

※児童手当及び退職手当を除く（2019 年度決算資料より）

して否決した経緯があります。12 月議会において議案を質していきます。

一般質問がおこなわれます (12 月 2 日～4 日)



松村としお市議

1. 災害につよいまちづくりに
2. 放課後児童クラブ(学童保育)
3. 格差と貧困対策について
4. 教員の「変形労働制」について



とばめぐみ市議

1. 公立・公的病院の再編統合
2. 保育行政について
3. 片柳小学校のバス通学について
4. 加田屋地区の公園整備について

* 日程が決まり次第、ホームページでお知らせします。ぜひ傍聴にお越しください。

請願と意見書(案)の採択に全力

12 月議会で党市議団が紹介議員になった請願は次の通りです。

- ゆきとどいた教育をすすめるための 30 人学級実施を求める請願
- 国民健康保険県単位化による保険税水準の統一はやめ、税負担の軽減を求める請願
- また、党市議団として 4 件の意見書(案)を提出しました。全会派が一致すれば、議会の意思として国に送致されます。
- 性暴力被害者ワンストップ支援センターへの補助金の拡充を求める意見書(案)
- 公立・公的病院の再編統合計画に関する意見書(案)
- 介護保険制度の改定に反対する意見書(案)
- 改正動物愛護法の数値規制においてアニマルウェルフェアにかなった規制を求める意見書(案)

市民の願いを 実現するために



さいたま総行動実行委員会

11 月 15 日に、市民要求実現さいたま総行動実行委員会が 20 回目となる市への要望・懇談をおこないました。懇談には久保みき、松村としおの両市議が同席しました。

同実行委員会の要望は多岐にわたりましたが、当日は重点要求として 13 項目について

市の回答を受けました。一部を紹介します。

国民健康保険税の引き下げについて、市は「法定外繰り入れの段階的な削減・解消をおこなう予定」として、値上げを続けていく姿勢を示しました。生活保護の通知が分かりにくいので改善を求める要望については「分かりやすくできないか検討したい」と回答しました。加齢性難聴の人への補聴器購入助成制

度の導入については「国の研究成果等の公表をもって対応を検討したい」と、まず市独自でとりくむ考えについては否定しました。

松村市議は「市の回答は不十分なものが多かったが、市民が持ち寄った願いを実現することで、誰もが安心してらせるさいたま市にすることができる。力をあわせて実現していきたい」と話しました。

とりうみ敏行の 学童のねがい 現場訪問 市に届け!



市内学童保育から懇談のご要望をいただき、11 月 20 日に浦和区内の放課後児童クラブ「木崎ペガサス」と「木崎スピカ」を訪問しました。

「現場を見てほしい」という保護者や指導員の思いを受け、19 時から懇談がスタート。両学童クラブは木崎小学校区内にありますが、年々児童数が増え続け、すでに定員オーバーで、来年度の受け入れが困難になっています。保護者や指導員は「大人総出で分離先（土地や借家）を探しているが見つからない」「来年度の保育料を決めるため、また指導員の確保のためにも国の

処遇改善費 300 万円を満額活用してほしい」など、厳しく切実な運営実態をうかがいました。

私からは、党市議団がかねてから放課後児童クラブについて市議会で改善を求めてきたことを伝えつつ、市が責任をもってとりくむべき課題だとお伝えしました。

要望を受けた、分離・新設への市のサポート、委託金の増額、公設の学童クラブの増設、AED の設置などについて、引き続き努力していきたいと思います。

子育て支援 すみすみまで届けたい 子ども家庭総合センターを視察



あいぱれっとを視察する（右から）とば、久保、たけこし、金子の各市議

11 月 22 日、党市議団は浦和区に昨年度開館した子ども家庭総合センター（愛称：あいぱれっと）を視察しました。開館以来、「ぱれっとひろば」や「冒険はらっぱ」など、親子で楽しめる遊び場・交流の場が市民に人気です。

1 階の「なんでも子ども相談窓口」では子育てに関する相談をワンストップで受け付け、1 年間で 2240 件の相談がありました。また、このセンターには児童相談所・こころの健康センター・男女共同参画相談室・総合教育相談室（あいぱれっと教育相談室）・子どもケアホームが設置されています。それぞ

れの窓口で相談を受け、必要場合は、合同で実務者会議をおこなって対応を協議するなど、連携して支援にあたる体制がとられているということでした。

子ども、家庭をめぐるさまざまなニーズに、専門性を有する職員が対応する施設として、大きな役割が期待される「あいぱれっと」。今後も職員の配置や支援内容についての検証が必要です。市議団としても、さらに充実した支援がおこなわれるよう求めています。

あなたの身近な議員です



市議(北区)

神田よしゆき



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保 みき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(南区)

金子あきよ



市議(中央区)

たけこし連